

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	(専) 金沢科学技術大学校
設置者名	学校法人 金沢科学技術学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
工業専門課程	自動車工学科 1級コース	夜・通信	4,215 単位時間	320 単位時間	
	自動車工学科 2級コース	夜・通信	2,100 単位時間	160 単位時間	
	情報工学科 ソフトウェア開発コース	夜・通信	1,755 単位時間	160 単位時間	
	情報工学科 ITクリエイトコース	夜・通信	1,740 単位時間	160 単位時間	
	ビジネスパソコン学科	夜・通信	930 単位時間	80 単位時間	
	映像音響学科	夜・通信	1,755 単位時間	160 単位時間	
	電気エネルギー工学科	夜・通信	1,740 単位時間	160 単位時間	
	建築学科	夜・通信	2,280 単位時間	160 単位時間	
	家具クラフト学科	夜・通信	1,860 単位時間	160 単位時間	
(備考) 自動車工学科1級コースには現在1年生、2年生そして編入学の3年生までが在籍。(2023年度から4年制の学科コースとして設置したため。)					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.kist.ac.jp/disclosure/

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	(専) 金沢科学技術大学校
設置者名	学校法人 金沢科学技術学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.kist.ac.jp/about/executive>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	企業経営者	2022. 6. 13 ～2024. 6. 12	財務
非常勤	弁護士	2022. 6. 13 ～2024. 6. 12	法務(コンプライア ンス)
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	(専) 金沢科学技術大学校
設置者名	学校法人 金沢科学技術学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>授業計画においては毎年度学科ごとに、それぞれの業界の変化を見据えて次年度カリキュラム作成のための会議を開き、改変している。成績評価の方法や基準に関しては学則第 20 条にて決められており、それを基に科目ごとの評価基準を作成して授業計画(シラバス)に記載している。このシラバスについては年度初めのオリエンテーションにて学生に説明している。</p>	
授業計画書の公表方法	https://www.kist.ac.jp/disclosure/
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生の成績評価 学生の成績は、筆記試験、実技試験、提出物、出席率、学習態度等を総合して「優」・「良」・「可」・「不可」で表し、「可」以上で当該授業科目認定としている。 ・進級及び卒業の認定 進級及び卒業の認定の要件は学科によって異なる。成績、出席データは学科ごとに計算、作表処理(様式統一)して出力し、進級・卒業要件を満たすかどうかをそれぞれの学科内で確認して判断を下す。 ・進級及び卒業判定会議 毎年 3 月初旬に、全学科が判定結果を持ち寄って出席者全員に状況を説明し、最終的に校長が決定を下す。 出席者：校長・副校長・事務長・教務部長・各学科長 	

<p>3. 成績評価において、G P A等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p> <p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 成績評価については学則第 20 条にて成績を 4 段階（優、良、可、不可）と定めており、学生必携（学生配布用）に記載し、入学オリエンテーション等にて説明・周知している。 成績の順位については各成績を 1 点～4 点の G P Aを用いて行っている。</p>	
客観的な指標の 算出方法の公表方法	https://www.kist.ac.jp/disclosure/
<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p> <p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業認定については学則第 21 条に定めており、学生必携（学生配布用）に記載し、入学オリエンテーション等にて説明・周知している。 また、これを厳格に運用するため洋々な資料を基に卒業判定会議（3 月上旬に校長・副校長・事務長・教務部長・各学科長にて）を行って卒業を認定している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.kist.ac.jp/disclosure/

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	(専) 金沢科学技術大学校
設置者名	学校法人 金沢科学技術学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kist.ac.jp/disclosure/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kist.ac.jp/disclosure/
財産目録	https://www.kist.ac.jp/disclosure/
事業報告書	https://www.kist.ac.jp/disclosure/
監事による監査報告（書）	https://www.kist.ac.jp/disclosure/

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士			
工業		専門課程	自動車工学科 1級コース			○			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間数又は総単位数			開設している授業の種類				
					講義	演習	実習	実験	実技
4年	昼	280			84		197		
					単位	単位	単位	単位	単位
		単位			281		単位		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
80 人		10 人	0 人	9 人	1 人	10 人			

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 1級自動車整備士養成施設として法令にそった内容で、4215時間の授業と資格講習などを実施
成績評価の基準・方法
(概要) 筆記試験・実技試験を主として、レポート・小テスト・態度などを加味して、80点以上～優、70点以上80点未満～良、50点以上65点未満～可、50点未満～不可とする
卒業・進級の認定基準
(概要) 280単位すべて取得した上で、1, 2年次の受講時間が学科600時間、実習1200時間に達し、3, 4年次の受講時間が1800時間に達すること
学修支援等
(概要) 基礎数学講座の開設、放課後の個別指導、不可科目の補講等

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
0人 (0.0 %)	0人 (0.0 %)	0人 (0.0 %)	0人 (0.0 %)
(主な就職、業界等) 大型・小型・輸入車カーディーラー、一般整備工場、建機等販売整備会社、自動車板金工場など			
(就職指導内容) 1年前期より企業研究を開始し、就職ガイダンスや個別面談を通して、本人の希望にそって指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 1級自動車整備士資格を全員取得、その他自動車に関する資格試験にチャレンジ			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4人	0人	0.0 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談、三者面談の実施		

分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業	専門課程	自動車工学科 2級コース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時間数又は総単位数		開設している授業の種類		
				講義	演習	実習
2年	昼	140 単位		48 単位		92 単位
				140 単位		単位
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人	44 人	2 人	9 人	1 人	10 人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)

(概要)
2級自動車整備士養成施設として法令にそった内容で、2100時間の授業と資格講習などを実施

成績評価の基準・方法

(概要)
筆記試験・実技試験・課題の出来栄を主として、レポート・小テスト・態度などを加味して
80点以上～優、70点以上80点未満～良、50点以上65点未満～可、50点未満～不可とする

卒業・進級の認定基準

(概要)
140単位すべて取得した上で、学科600時間、実習1200時間に達すること

学修支援等

(概要)
基礎数学講座の開設、放課後の個別指導、不可科目の補講等

卒業者数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)

卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
28 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	28 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等) 大型・小型カーディーラー、一般整備工場、建機等販売整備会社、自動車板金工場など			
(就職指導内容) 1年前期より企業研究を開始し、就職ガイダンスや個別面談を通して、本人の希望にそって指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) 2級自動車整備士資格を全員取得、その他自動車に関する資格試験にチャレンジ			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	1 人	1.8 %
(中途退学の主な理由) 成績不良によるもの、自己都合による進路変更等		
(中退防止・中退者支援のための取組) 個別面談・三者面談の実施		

分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士	
工業	専門課程	情報工学科ソフトウェア開発コース		○		
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時間数又は総単位数	開設している授業の種類			
			講義	演習	実習	実験
2年	昼	114単位 単位時間/単位	38 単位		79 単位	
			117 単位数			
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	選任教員数	兼任教員数	総教員数	
60 人	63 人	0 人	2 人	10 人	12 人	

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 科目ごとの授業計画(シラバス)に記載し、年度初めのオリエンテーションにて学生に説明。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験・レポート・課題・出席状況による。詳細は各科目シラバスにて。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学科で卒業に必要な単位を単位数を取得していること。また、学納金が納入済みであること。
学修支援等
(概要) 担任制による支援および、資格試験前の講義または集中講義による+αの勉強会を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
44 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	44 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等)	ソフトウェア・システム開発、システム運用、情報通信業、パソコン販売、事務		
(就職指導内容)	履歴書作成指導、面接指導、学校内会社説明会		
(主な学修成果(資格・検定等))	基本情報技術者、ITパスポート、マルチメディア検定ベーシック、.com Master ADVANCE		
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
80 人	3 人	3.8 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)	担任制によるカウンセリング及び保護者との連携。	

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	情報工学科ITクリエイトコース	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時間数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	114単位 単位時間/単位	38 単位		78 単位		
			116 単位数				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	選任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	32 人	0 人	2 人	10 人	12 人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 科目ごとの授業計画(シラバス)に記載し、年度初めのオリエンテーションにて学生に説明。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験・レポート・課題・出席状況による。詳細は各科目シラバスにて。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学科で卒業に必要な単位を単位数を取得していること。また、学納金が納入済みであること。
学修支援等
(概要) 担任制による支援および、資格試験前の講義または集中講義による+αの勉強会を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
8 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	8 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等) webデザイン、システム運用、情報通信業、事務			
(就職指導内容) 履歴書作成指導、面接指導、学校内会社説明会			
(主な学修成果(資格・検定等)) 基本情報技術者、ITパスポート、色彩検定、webクリエイター能力認定試験スタンダード			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
27 人	1 人	3.7 %
(中途退学の主な理由) 自信喪失、健康不安		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制によるカウンセリング及び保護者との連携。		

分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業	専門課程	ビジネスパソコン学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時間数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1年	昼	54単位 単位時間/単位	26 単位		36 単位		
			62 単位数				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	選任教員数	兼任教員数	総教員数		
20 人	1 人		2 人	7 人	8 人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 科目ごとの授業計画(シラバス)に記載し、年度初めのオリエンテーションにて学生に説明。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験・レポート・課題・出席状況による。詳細は各科目シラバスにて。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学科で卒業に必要な単位を単位数を取得していること。また、学納金が納入済みであること。
学修支援等
(概要) 担任制による支援および、資格試験前の講義または集中講義による+αの勉強会を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
2 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	2 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等)			
(就職指導内容) 履歴書作成指導、面接指導、学校内会社説明会			
(主な学修成果(資格・検定等)) 色彩検定、jobパス3級、webクリエイター能力認定試験スタンダード			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
4 人	0 人	0.0 %
(中途退学の主な理由) 自信喪失、健康不安		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制によるカウンセリング及び保護者との連携。		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	映像音響学科	○				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時間数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	114単位	32		85		
			単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		単位時間/単位	117 単位時間				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	選任教員数	兼任教員数	総教員数		
80 人	73 人	0 人	2 人	11 人	13 人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 科目ごとの授業計画(シラバス)に記載し、年度初めのオリエンテーションにて学生に説明。
成績評価の基準・方法
(概要) 試験・レポート・課題・出席状況による。詳細は各科目シラバスにて。
卒業・進級の認定基準
(概要) 学科で卒業に必要な単位を単位数を取得していること。また、学納金が納入済みであること。
学修支援等
(概要) 担任制による支援および、資格試験前の講義または集中講義による+αの勉強会を実施。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
37 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	37 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等) 映像プロダクション、イベント音響・照明業務、ホール管理、ブライダル演出ほか			
(就職指導内容) インターンシップを利用した業界研究、企業提出のポートレート制作			
(主な学修成果(資格・検定等)) 映像音響処理技術者資格認定試験 MIDI検定 舞台音響機構技能士 マルチメディア検定			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
77 人	3 人	3.9 %
(中途退学の主な理由) 健康不安や進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 担任制によるカウンセリング及び保護者との連携。		

分野	課程名	学科名		専門士	高度専門士		
工業	専門課程	電気エネルギー工学科		○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時間数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	114 単位	56 単位	0 単位	60 単位	0 単位	0 単位
			116 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	23 人	0 人	1 人	8 人	9 人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 第二種電気工事士養成施設に認定されていることを踏まえた授業及び上位資格取得を目指す。
成績評価の基準・方法
(概要) 講義科目は各期毎に中間試験及び期末試験を、実習科目は期末試験のみの成績結果で評価する。
卒業・進級の認定基準
(概要) 卒業は114単位以上の単位修得、進級は不認定科目の総単位数が12単位を超えないことが原則。
学修支援等
(概要) 個人の能力、資質等を踏まえ、放課後の個別指導及び夏期休暇期間中の資格取得等の講習会実施。

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
11 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	11 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等) 電気工事業、電気保安業、製造業			
(就職指導内容) 就職指導課とエネルギー工学科が連携し、科全体の就職指導及び個別に対応する。			
(主な学修成果(資格・検定等)) 第三種電気主任技術者、第一種電気工事士、消防設備士、第二種電気工事士(養成施設認定校)			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
23 人	2 人	8.7 %
(中途退学の主な理由) 自己都合による進路変更。		
(中退防止・中退者支援のための取組) 各科目授業担当者と常時連携し、授業態度や出席状況を踏まえ、適宜個別指導する。		

分野		課程名	学科名		専門士	高度専門士			
工業		専門課程	建築学科		○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間数又は総単位数			開設している授業の種類				
					講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	1800時間／120単位			54	98			
					単位時間	単位時間	単位時間	単位時間	単位時間
		単位時間／単位			152		単位時間		
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	選任教員数	兼任教員数	総教員数			
80 人		84 人	0 人	2 人	20 人	22 人			

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)	
(概要)	
1年時は基本的な素養、基礎的な知識を身に付け、2年時はより実践に近い技術を身に付ける。2級建築士の受験資格を修得する。	
成績評価の基準・方法	
(概要)	
ペーパー試験による評価、実習課題の評価による。	
卒業・進級の認定基準	
(概要)	
各教科の評価＋進級設計、卒業設計	
学修支援等	
(概要)	
再試験、補講を行う。	

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
32 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	32 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等)			
住宅会社、建設会社、設計事務所など			
(就職指導内容)			
各自の特性や希望をもとに求人情報を照らし合わせて行う。			
(主な学修成果(資格・検定等))			
卒業後、各自2級建築士を受験している。			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	10 人	11.9 %
(中途退学の主な理由)		
向き不向きの問題、学力の問題		
(中退防止・中退者支援のための取組)		
指導と、転学科支援、就職支援		

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
工業	専門課程	家具クラフト学科	○				
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時間数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼	114 単位	26 単位	0 単位	98 単位	0 単位	
			124 単位				
生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数		
40 人	13 人	0 人	1 人	11 人	16 人		

カリキュラム(授業方法及び内容、年間の授業計画)
(概要) 木工および建築関連の基礎知識を学びつつ、手加工、機械加工の技術を習得することを基本とする
成績評価の基準・方法
(概要) 講義科目に関しては、理解度を基に判断し、実習科目に関しては、完成度、デザイン性などを考慮
卒業・進級の認定基準
(概要) 進級は規定の単位数の水準を満たすもの。卒業は114単位以上を習得すること
学修支援等
(概要) 各自の能力に合わせた、課題設定をし、一定の基準を満たしつつ、特性を伸ばす

卒業生数、進学者数、就職者数(直近の年度の状況を記載)			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む)	その他
14 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)	14 人 (100.0 %)	0 人 (0.0 %)
(主な就職、業界等) 木工制作関連、家具販売			
(就職指導内容) 各自の希望を考慮して、適正を判断して向いている職種の選定を指導			
(主な学修成果(資格・検定等)) インテリア設計士			
(備考)(任意記載事項)			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
21 人	1 人	4.8 %
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組)		

②学校単位の情報

a) 「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考 (任意記載事項)
自動車工学科 1級コース	150,000円	500,000円	500,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
自動車工学科 2級コース	150,000円	500,000円	500,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
情報工学科	150,000円	400,000円	450,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
ビジネスパソコン学科	150,000円	400,000円	450,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
映像音響学科	150,000円	430,000円	450,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
電気エネルギー学科	150,000円	380,000円	450,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
建築学科	150,000円	380,000円	450,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
家具クラフト学科	150,000円	380,000円	450,000円	実習費・設備費 (教科書代等別途)
修学支援 (任意記載事項)				
授業料減免制度 (特待生制度、上級課程制度、社会人制度)				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kist.ac.jp/disclosure/		
学校関係者評価の基本方針 (実施方法・体制) 自己評価の結果を踏まえ、評価の低い項目について学校側が策定した改善策について、具体的な取り組みが適切であるか否か、またその達成状況等について助言及び総合的に評価してもらう事を基本とする。 文部科学省の「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、各学科長及び各課長が実施する自己評価を校長がまとめ、それに基づいて学校関係者評価委員会を年1回開催する。 評価委員会が示した課題の内容によりその都度適切と思える学校側担当者をオブザーバーとして会議に参加させ、改善策を実施する。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
学校法人叡明館 叡明館高等学校 元校長	2024. 4. 1～2026. 3. 31	高校関係者
株式会社 Inter Gate 代表取締役 社長	2024. 4. 1～2026. 3. 31	地元企業関係者
一般社団法人石川県整備振興会 元専務理事	2024. 4. 1～2026. 3. 31	業界団体関係者
1997年度卒業生	2024. 4. 1～2026. 3. 31	卒業生
2001年度卒業生の保護者	2024. 4. 1～2026. 3. 31	保護者代表

学校関係者評価結果の公表方法
(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://www.kist.ac.jp/disclosure/
第三者による学校評価 (任意記載事項)

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) https://kist.ac.jp/

(別紙)

※この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校名	(専) 金沢科学技術大学校
設置者名	学校法人 金沢科学技術学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者(家計急変による者を除く)		36人	31人	36人
内 訳	第Ⅰ区分	18人	17人	
	第Ⅱ区分	-人	-人	
	第Ⅲ区分	-人	-人	
家計急変による支援対象者(年間)				0人
合計(年間)				36人
(備考)				

※本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令(令和元年政令第49号)第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	人	0人	0人
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が標準時間数の5割以下)	人	0人	0人
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	人	0人	0人
「警告」の区分に連続して該当	人	0人	0人
計	人	一人	一人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	人	前半期	0人	後半期	0人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの に限り、認定専攻科を含む。）、 高等専門学校（認定専攻科を含 む。）及び専門学校（修業年限が 2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数 の6割以下 (単位制によらない専門学校に あつては、履修科目の単位時間 数が標準時間数の6割以下)	人	0人	0人
GPA等が下位4分の1	人	一人	一人
出席率が8割以下その他 学修意欲が低い状況	人	一人	一人
計	人	一人	13人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格A4とする。